令和４年度　授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　保健体育　）　　学年（　1　）

目指す授業

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む授業
教え込み、できなければ減点する授業から、「教え込み過ぎない」「できなくてよい」「減点しない」授業

授業・アンケート等の課題分析

・前回の結果よりも、「当てはまる」から「どちらかといえば当てはまる」の回答数が多い傾向なのは、他の学校に関するアンケートと同様で、自我の芽生えか、これまでの当たり前に疑問を抱くようになっているという精神発達上はポジティブな傾向であると考えている。一方で、従順でなくなっていることへの対応に不満を抱く生徒が増え、信頼関係を保ち、より深めていくのに苦労をしている。
・「当てはまらない」の回答は微増しているが、授業の様子からは感じ取れていないので、もっと生徒の言動に目や耳を傾け、自己表現がしやすい雰囲気作りが必要である。

成果と課題

成果

・単元ごとにテストを行い、定期考査時の生徒の負担軽減と、単元ごとの理解度が増した。
・馬飛びをしようとすらしなかった集団であったが、苦手意識や嫌いという感情をもって入学した生徒たちにも、笑顔で取り組む姿が見られるようになった。
・その都度注意するのではなく、見守ることで少しずつ自治の動きがみられるようになってきた。

課題

・スポーツの本質を理解しつつあるのに、それが肯定されず、辛くても、苦しくても、苦手でも、逃げずに、頑張ることをよしとする場面が学校生活の中ではあり、間違いや失敗は、注意・叱責を受ける許されないものであり、挑戦しようとする姿勢が失われつつある。

令和４年度　授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　保健体育　）　　学年（　２　）

目指す授業

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む授業
教え込み、できなければ減点する授業から、「教え込み過ぎない」「できなくてよい」「減点しない」授業

授業・アンケート等の課題分析

・アンケート結果は、第１回と比べ、「当てはまる」が大幅に増え、「当てはまらない」がゼロになる項目が半数ほどあった。他学年には見られない変化であり、体育に対してポジティブな気持ちで取り組めるようになったのではないか。ただし、短絡的に回答した結果である可能性もある。
・一人ひとりの意識としては前向きになってきてはいるが、それを伝えて、集団としてより良い集団を作り上げていこうとするところまでには至っていない。

成果と課題

成果

・集団での行動が苦手な生徒への支援のために全体を止めることが、負の連鎖を生んでいるのではないかとの仮説を立てて、前向きに取り組んでいる生徒中心の授業を心がけた結果、全体を止めるような不適切な言動はほぼなくなった。
・集団としての成長は見られた。
　いい加減に活動していることは望ましくないという雰囲気になってきた。
　できないよりはできた方が楽しく、そこにはチャレンジしようとする人数が少し増えた。
　補強運動の意義について理解し、取り組む人数が増えた。
　うまくいかない仲間を茶化すようなことはほぼなくなった。
・評価やダメ出しがなくとも、自らより良くあろうとする兆しがあり、あと１年の見通しが立つ。

課題

・単元ごとにテストを行い、定期考査時の生徒の負担軽減と、単元ごとの理解度が増した。
・仲間を助け、ともに支えあって学ぼうとする意識はあるであろうが、行動に移せていない。
・スポーツの本質を理解しつつあるのに、それが肯定されず、辛くても、苦しくても、苦手でも、逃げずに、頑張ることをよしとする場面が学校生活の中ではあり、間違いや失敗は、注意・叱責を受ける許されないものであり、挑戦しようとする姿勢が失われつつある。
・忘れ物や何かしらの不都合、または苦手意識から授業に参加しない場合に、何も言わずに参加しない生徒が一部だが、いる。忘れ物をすることは許されない間違いであり、SOS を自ら発することがネガティブであるイメージ、苦しいことにも耐えて頑張らなければならないものであるという思い込みが、なかなか払しょくできないことも原因の一つなのではないか。これらのことで叱ったことはないが、学校全体としては共有できていないように感じる。外国籍の、または違う環境の経験のある、さらにはその経験が新しければ新しい生徒ほど、この限りではない場合が多いことからも、地域や、小中の連携の課題とも言える。

令和４年度　授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　保健体育　）　　学年（　３　）

目指す授業

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む授業
教え込み、できなければ減点する授業から、「教え込み過ぎない」「できなくてよい」「減点しない」授業

授業・アンケート等の課題分析

・７月や昨年度とも比較して、ほぼ変わりなく、ポジティブな回答が圧倒的に多い。一見問題なく、授業を行っていても、指示には従順であるが、集団としては主体的に欠ける。見取りではもう少しネガティブな気持ちの生徒もいるはずだが、それが数字に表れていない。
・別の学校に対するアンケートでも同様の結果が見られ、異論や疑問を抱くよりも無難にやり抜く術を身につけてしまっている生徒が多いように感じる。今後がとても心配である。

成果と課題

成果

・単元ごとにテストを行い、定期考査時の生徒の負担軽減ができ、単元ごとの理解度が増した。
・仲間へのポジティブで優しい声掛けがさらに多く見られるようになったが、それは担当者が授業に力をかけられない現状の影響によるところもある。
・２年続けた単元では深化があり、１年次や昨年度できなかった単元にも取り組むことができ、一通りの領域にふれることができた。

課題

・総合のまとめ取りなどによる時間割変更が、小学校への施設貸し出しにより思うようにいかず、単元によって大きな偏りができた。
・まだ指導者依存が大きく、自ら考え行動して楽しもうというより、指導者の言うことをきいて、できるようになることを喜びとしているところがあるし、授業者にもそのような方向性が残っている。